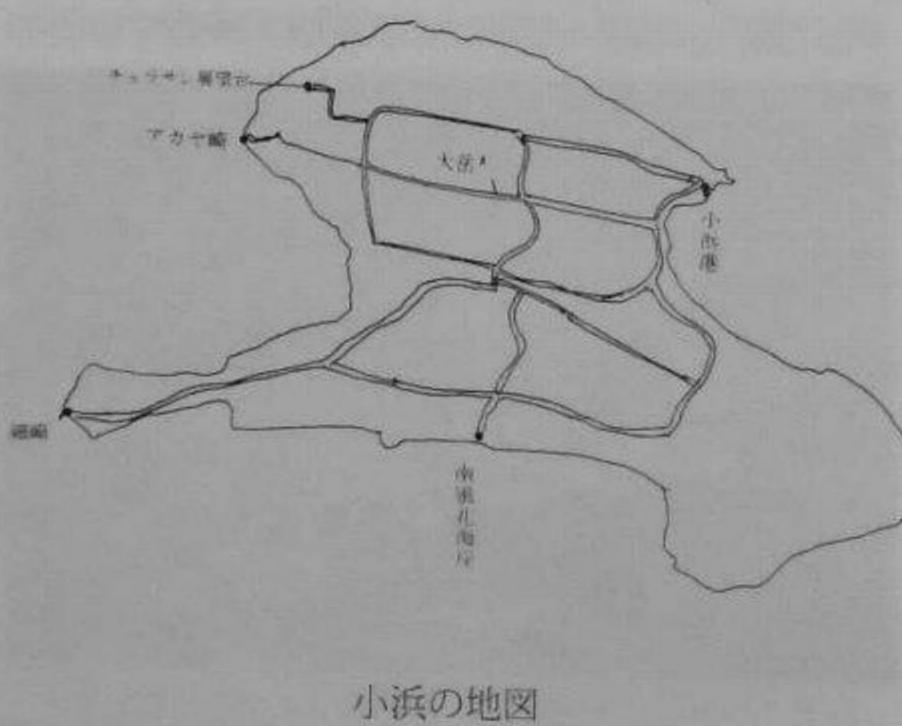


である。結局、波照間での収穫を考えると、行ったことのない小浜に賭けてみることにした。小浜島へは八重山観光フェリーと安栄観光の2社が運行しており、同時刻発である。時間が違ったほうが、効率よく滞在できるのにと思った。ちなみに帰りも同時刻発であり、どちらか30分でも遅ければ余計に採集できるのである。

この航路は波も穏やかであった。港に着くとさすが観光地である。多くの車がみえ、3軒のレンタカー屋が看板で客引きをしていたが、その時は私一人が客だったようである。

軽自動車を借り、早速大岳（うふだき）をめざす。ところが、入り口がわからない。同じ地点にほかの観光客も来たが、皆結局あきらめて帰った。ここではヤギが多くいたが、落葉も多く、シフティングだけして帰った。

ついで、「チュラさん展望台」をめざすが、またしても迷い、西岸のアカヤ崎にててしまった。石が転がっていたのでその裏側などを調べたらワラジムシは少なかったがサソリがいた。これ以上の収穫がないと見てほかにいくことにした。アカヤ崎とチュラさんの丘の間の道ばたの林で採集をした。最後の船までもうひとつ調査をしようと南風花海岸まで行った。突然の雨で、ひとつ早い船で帰ろうと港に近づいたところ、雨がやんだので、再度でなおす。ここではたいした成果が出なかつたが、時間切れであった。何とか最終の船に間に合つた。



小浜の地図

### 石垣で

最終日。石垣島で午前中を過ごすこととした。8時半にレンタカーを借り出発した。石垣島は前にも何回か来ているので今まで行ったことのない、市内から西に行くコースを取った。まず先端の観音崎に行った。ここは、岩と砂利の自然海岸で、飛沫帯の環境に特有の種も多く見られた。次に北上してみることにした。元名蔵海岸に車を止めるスペースがあり、ここで止めた。せっかく干潮なので、潮間帯でたくさんの石をひっくり返すと朱色の小さなワラジムシが出てきた。間違いなくヒゲナガワラジムシであった。インド一西太平洋の熱帯、亜熱帯の潮間帯に住む仲間である。潮間帯の石の裏側が湿っていないで凹凸のあるところ、もちろん、ぜったい黒っぽい還元的な環境ではないところが必要である。

午前中の4時間は瞬く間に終わりにかかる。もう一ヶ所と思い、於茂登トンネルの北でサキシマハブに気をつけながら採集し、イシガキモリワラジムシなどを採集した。いよいよ時間切れになったので、ここで荷物を整理して、石垣市内に向かった。

飛行機の時間が迫っているのであわただしく、荷物を郵送し、車を返し、タクシーで空港に行った。急いでサンドイッチをほおばりながら、待合室を出て、タラップにのぼった。「時間との戦いだったなあ」と思いながら閑空行きの飛行機に乗り込んだ。そして、多くの仕事の待つ晩秋というよりは初冬の富山に戻った。



元名蔵海岸

## 平成17年度第3回野外研修会報告

中川定一

日時：平成17年6月19日（日）

午前9時～午後3時

場所：氷見市灘浦海岸

目的：高等植物の調査

参加者

小川徳重、久保秋次、佐武修、佐藤卓、滝口景子  
寺下信吾、中川定一、増田恭次郎、吉崎正男

以上 9名

### はじめに

氷見の灘浦海岸はすべて国定公園内とはいえない。虻が島、阿尾城跡は有名であり、国定公園内であるが、阿尾、藪田、小杉、泊、宇波と続く集落の一部が国定公園内となっている。しかし、公園外であっても各集落のほんの少し奥は急な崖地が迫り植物を見る限り大変興味あるところである。ただ、いやな点は畠地や田が多く、見知らぬ人が通ると不審な目で見られるのではないかと気が引ける。今回は地元の寺下さんに付き添って貰った。

リストをつくる余裕がないので、絶滅危惧植物や特異な生態の植物のみに感想を記す。

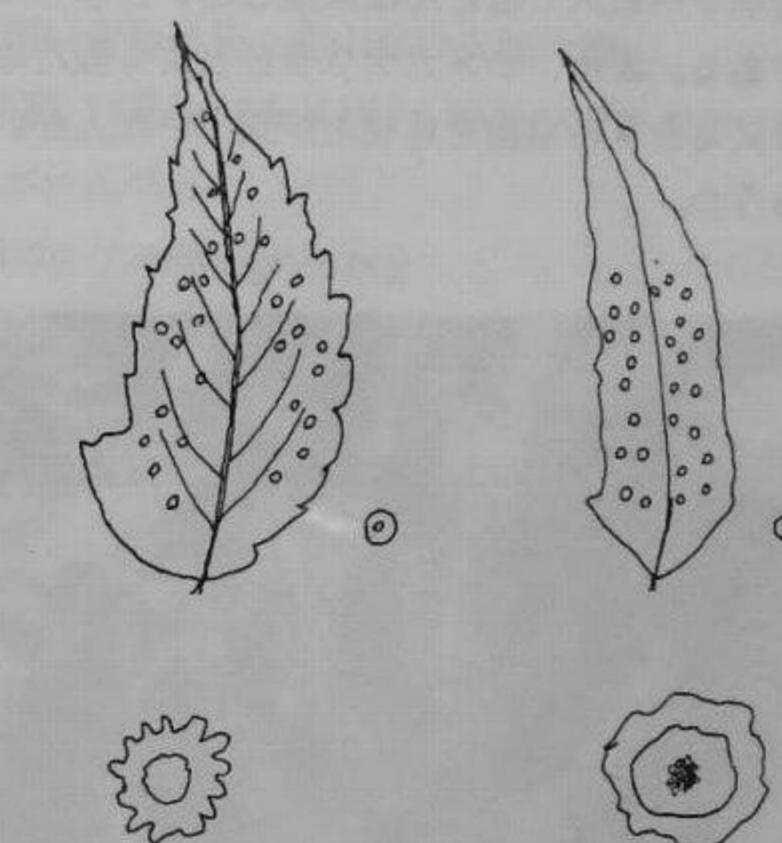
### 1. 泊 神明社周辺 コモチシダとミヤコヤブソテツ

泊の神明社横から山手に入るのだが、幅2mばかりの川（瀬間田川）には水が無く、幅20cmばかりの溝に水が溢れている。川の上流部は突然水が地下に潜り、また、突然、川が現れる。草が多い季節、落とし穴に嵌るような地形である。100mは続く農道で北側はすべて急斜地オオバノイノモトソウ、コモチシダ、ヒメカナワラビの群生である。ここではヤマヤブソテツとミヤコヤブソテツが共に生育しているが、葉を中心説明したが皆さんに納得してもらえたかった。決め手は葉の裏の包膜だが、これも各図鑑の説明はあいまいである。

「日本の野生植物 シダ 平凡社」によれば、ヤマヤブソテツの包膜は灰白色でミヤコヤブソテ

ツの包膜は中心部は黒褐色であるが、これにも悩まされ続けている。

下図で説明すると、先端部（葉身の半分より上）の羽片の出だしの部分がヤマヤブソテツは丸ぼく、ミヤコヤブソテツは鋭角（90度）的に出る。決め手は包膜で前者は外側は透明で内部は褐色、後者は外側は透明内部は褐色で中心部は黒くなる。これはルーペか実体顕微鏡（×20, ×40）で確認する。



左 ヤマヤブソテツ 右 ミヤコヤブソテツ

他に注目する種として、キジカクシ、ササバギンランが見られた。

コモチシダとミヤコヤブソテツは県の希少種に指定されているが、コモチシダは灘浦海岸では崖さえあれば、1000本単位で見られる。

### 2. 小境 朝日神社 ツルドクダミ

タブノキが海に突き出るように生えている下、ツルドクダミが1本背丈以上に伸びていた。アマヅル、サンカクヅルでないことを小牧図鑑で確かめる。この植物を見るのは数年ぶりである。「富山県植物誌」では、「中国原産 享保5年 薬用として輸入、逸出してまれに野生化 島尾」とある。科学文化センター、中央植物園に標本を送ることにした。

参加者の大半はヤマゴボウの花の撮影に力が

入っていたようだ。

### 3. 小境 髪塚

灘浦中学校の横から崖沿いに100mほど行くと市指定文化財髪塚がある。ここからは灘浦中学校越しに夕日神社の社叢が見え、ヤブニッケイが多いところであるが本日はコースに入れなかった。

さて、髪塚の裏手は藪が茂り薄暗い斜面に数年前からハカタシダが生育していることを知っている。特別サービスで皆さんには採集しないと信じたからである。また、ヒメカナワラビとよく似たオオキヨズミシダの葉裏を見せたが気づいた人がいただろうか。



ハカタシダ

### 4. 大境 遊歩道

昼食後、遊歩道を歩く。誰かが崖下にハマカンゾウらしきものを見つける。柵を越え佐藤さんが、写真撮影に挑戦する。熱意に感心するが、それを見ている人は崖から転落しないか身震いする。この植物の種名はなにか。オニユリ、コオニユリでないことは確かである。この遊歩道、昨年の台風で一部崖が崩壊し新たに道を新設してある。希少種のトベラはよく見られるが、希少種のヤブニッケイは1本しかなかったと思う。崖際の一隅に小さな実を付けていまも健在であった。見晴らしの良いところで山側の道を通って引き返す。季節は

すでに咲いたシロバナタンポポ、ユーカリ、ビワなど見ながら駐車場に着く。危急種のジャケツイバラが高い崖から魚具入れ倉庫の屋根を覆っていた。

### 5. 稲積

帰りついでに稲積の廃屋の庭を案内する。希少種のサイカチで目通り直徑1mほどの大木である。長さ20cmばかりの昨年の英が落ちていた。市の文化財に推挙しようと考えたこともあるが、県下での評価はどうであろうか、他地区との比較もしていないので、そのまま放置してある。

### おわりに

本日案内したところにムベ（県危急種）、オモト（県希少種）がかつて生育していたが、両種とも1株も見られなかった。園芸採集によるものだと考えている。残念である。

### 参考資料

- 岩槻邦夫編. 日本の野生植物シダ. 1992. pp. 311. 平凡社. 東京.  
大田弘・小路登一・長井真隆. 1983. 富山県植物誌. 廣文堂. 富山.  
倉田悟・中池敏之編. 1987. 日本のシダ植物図鑑 5. 東京大学出版会. 東京.  
小牧旌. 1987. 加賀・能登の植物図譜. pp. 273. 同刊行会. 石川県.  
佐竹義輔ほか編. 1982a. 日本の野生植物 I. pp. 305. 平凡社. 東京.  
佐竹義輔ほか編. 1982b. 日本の野生植物 II. pp. 318. 平凡社. 東京.  
佐竹義輔ほか編. 1982c. 日本の野生植物 III. pp. 259. 平凡社. 東京.  
レッドデータブック作成委員会. 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物2003. pp. 352 富山県生活環境部自然保護課.

## 平成18年度生物関係 特別展・講演会のご案内

### 富山県中央植物園

#### 「植物園で楽しむ日本列島の桜旅」

4月1日（土）～5月1日（月）

#### 「第27回 野生ラン展」

5月3日（水）～5月5日（金）

#### 「さつき展」

6月2日（金）～6月4日（日）

#### 「バラとバラ図譜展」※変更の可能性あります。

6月9日（金）～6月21日（水）

#### 「私の植物写真展」

6月23日（金）～7月19日（水）

#### 「食虫植物展」

7月21日（金）～8月2日（水）

#### 「ニライカナイの染織と食 —琉球列島の植物の恵み—」

8月4日（金）～9月6日（水）

#### 「小中学生夏休み作品展」

9月8日（金）～10月18日（水）

#### 「菊展」

10月20日（金）～11月15日（水）

#### 「干支にちなんだ植物展」

12月8日（金）～平成19年1月31日（水）

#### 「平成18年度研究紹介展」

2月2日（金）～2月28日（水）

#### 「第35回 富山県蘭まつり大会」

3月2日（金）～3月4日（日）

#### 「私の植物画展」

3月8日（木）～3月28日（水）

問い合わせ先：富山県中央植物園

TEL：076-466-4187 FAX：076-465-5923

ホームページ

<http://www.bgtym.org>

### 富山市科学文化センター

#### 特集展示「バッタやコオロギとその仲間たち」

4月9日（日）～6月4日（日）

バッタ、コオロギ、キリギリスやカマキリ類、ナナフシ類などの標本と生態写真によって、富山県の直翅類とその近縁の仲間の紹介をします。

問い合わせ先：富山市科学文化センター

TEL：076-491-2123 FAX：076-421-5950

ホームページ

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

リニューアルのため2006年9月4日～2007年7月頃まで休館いたします。

## 書籍紹介

### 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況

#### 調査報告書

2004年秋は、北陸地方を中心に全国的にツキノワグマの出没が相次ぎ、富山県でも出没・人身被害が多発した。本報告書は、このような状況を憂

慮した富山県内の動物研究者などが、市町村ごとの出没状況をまとめたものである。2004年3～12月のクマの出没（目撃、痕跡など）は30市町村、出没件数は1280件（延べ件数）、捕獲数は、131頭、人身被害者数は26名であり、過去の例をみない出